

昔と今

医学教育研究センター 安達洋祐

この50年間、科学技術は著しく進歩し、私たちの生活は大きく変わった。

テレビはチャンネルを回すブラウン管の白黒テレビから、リモコン操作のカラーテレビになり、今では薄型大画面の液晶テレビだ。音楽は針を落として静かに聴くレコードが、持ち運び便利なCDに変わり、今は配信サイトのダウンロードで聞く。

本は近所の本屋だったのが、都会の大型書店になり、今はオンラインの通販だ。新聞は活字を組んで印刷していたのが、電算植字システムに変わり、今はスマホで読める。情報は紙に手書きしていたのが、コピー機で複写するようになり、今はサーバーに残される。雑誌は図書館で手に取っていたのが、今は画面上の電子ジャーナルだ。

すべてデジタル化のおかげである。手で作られ、物になってきたものが、記号化され、機器で利用するようになった。アナログの世界がデジタルの世界に変わったのだ。

便利な時代である。欲しいものは、簡単に手に入る。気になることは、容易に知れる。スマホがあれば、いつでもどこでも、社会とつながり、人と連絡できる。宴会は前もって知らせておく必要はなく、「〇〇屋ナウ」で集まれる。講演はスライドを準備しなくても、パソコンで移動中に作れる。論文は郵便で送らなくても、ボタン一つで投稿できる。

情報の検索も簡単だ。辞書や事典を開くまでもなく、スマホを使えば多種多様な情報源にアクセスできる。文献検索は図書館で分厚い *Index Medicus* を開かなくても、*PubMed* でキーワードを入力すれば無数の論文を収集できる。

私たちは何と無駄なことをしてきたのか。今の若者が見ると、びっくりするようなことばかりであろう。だけど、やっぱり、昔はよかった。時間をかけて作り上げた。苦労してやり遂げた。行ったり来たりしてたどり着いた。時間がかかったから、愛着がある。苦労したから、記憶に残る。迷って決めたから、がんばれる。

日常生活は、便利になった分、得られないものがあるだろう。効率よくできるようになった分、失ったものがあるにちがいない。生活だけでなく、仕事も同じ。人生も同じ。無駄が糧になる。苦労が宝になる。ときには、マイカーを使わず、バスや電車で出かけて歩いてみよう。思いがけない出会いがあるかもしれない。たまには、図書館に足を運び、書庫で論文を探してみよう。図書館の天使に出会えるかもしれない。